



【令和2年度・第2次筆記試験】

事例Ⅳ（財務・会計戦略） 模範解答例

（この解答例は、11月1日13:00 現在のものです）

第1問（配点25点）

（設問1）

	(a)	(b)
①	販売用不動産回転率	3.91 (回)
②	売上高営業利益率	2.15 (%)
	負債比率	532.24 (%)

（別解）①売上総利益率 26.39%

②（売上高営業利益率の代わりに）有形固定資産回転率 5.30回

（負債比率の代わりに）自己資本比率 15.82%

（設問2）

自己資本が過少で借入金への依存度が高く財政状態は悪い。販売用不動産の効率性は高いが販売管理費の負担が重く経営成績も悪い。（60字）

第2問（配点30点）

（設問1）

(a)	当期の変動費率＝変動費÷売上高＝65% 損益分岐点売上高＝変動費＋固定費であるため、 損益分岐点売上高＝70×65%＋（損益分岐点売上高－70）×60%＋28 ∴損益分岐点売上高＝78.75百万円
(b)	78.75百万円

（設問2）

(a)	(i)	①効果が出る場合のNPV＝5年間の（営業CFの現在価値－広告料の現在価値）＋5年後の投資CFの現在価値＝134.539 ②効果が出ない場合のNPV＝3年間の（営業CFの現在価値－広告料の現在価値）＋3年後の投資CFの現在価値＝△4.568 ③NPVの期待値＝134.539×70%＋△4.568×30%＝92.8069
	(ii)	92.81百万円

(b)	(i)	①順調に推移した場合の NPV=4.5 年間の営業 CF の現在価値+5 年後の投資 CF の現在価値=106.637 ②順調ではない場合の NPV=4.5 年間の営業 CF の現在価値+5 年後の投資 CF の現在価値=71.337 ③NPV の期待値=106.637×40%+71.337×60%-30=55.457
	(ii)	55.46 百万円

(c)

①

第 3 問 (配点 20 点)

(設問 1)

時価純資産額と買収価格の差 100 百万円を負ののれんとして当期の特別利益に計上する。(39 字)

(設問 2)

①負債が 400 百万円増加するため財政状態が悪化するリスクや、②E社の事業は当期赤字のため経営成績が悪化するリスクがある。(58 字)

第 4 問 (配点 25 点)

(設問 1)

(a)	4.31%
(b)	2.55%

(設問 2)

4.18%

(設問 3) ※本問はイケカコノート P33~34 からズバリの出題でした。

(a) 要求される資本コストが考慮されないこと。(20 字)

(b) ROI ではなく残余利益で評価を行うこと。(19 字)

文責 : AAS 東京 早坂健治

2 次試験で悩んだら、ぜひ AAS 東京へお越してください!

本科講座や公開模試、合格判定合宿、アシストゼミの開催を通して、
中小企業診断士 2 次試験への「明確な事例解法」を提供しています。
診断士受験生応援ブログ「合格アミーゴス」も好評です!

aas 東京

検索